

福祉サービス第三者評価

〔令和7年度〕

評価結果報告書

株式会社MIRATZ
MIRATZ本郷第二保育園

評価機関 有限会社エテルノ

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 未来の希望に向かって発展 ▪ 向上する明るい元気な子どもを育む ▪ 心豊かなエコ環境と優しい地域に生き生きと共生する子どもを育む ▪ みんなを親しみ愛し、太陽のように暖かい心を持った子どもを育む <p>（方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 働く女性をサポートし、子どもがいても安心して働ける社会づくりに寄与する ▪ 未来を担う子どもたちのために「AtoZ＝（何から何まで）」お任せいただける組織を創造する ▪ 地域の子育て家庭をサポートするために、有益な情報の交流や発信の役割を担う組織を創造する <p>（目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 一人ひとりの個性・意欲を大切にし、生きる力・豊かな心・考える力を培う
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 一人ひとりの持つ個性や特性を尊重し、職員や保護者の意見を柔軟に受け止める事ができる人。 ▪ 常に高い志を持ち、自ら行動し成長せきる人。 ▪ 思いやりと、いつくしむ心を常に持ち、人の為に働ける人。 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 保育士、栄養士など専門職として、子ども達のため保育の質の向上に努める。 ▪ 利用者のことを常に第一に考え、保育を行う。 ▪ 地域の状況を把握することで、すべきことを理解し、実践する。

調査対象

保育園に通っている園児16世帯17人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

17
16
16
10
62.5

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」70.0%、「満足」30.0%の計100.0%であった。自由意見では、「少人数で、子どもの要望をよく把握してもらっているか」と思います。認可保育園にもかかわらず、花まるスポーツ塾など、関連事業との連携は当園の魅力だと思います。「園内は親しみやすい雰囲気があり一人一人を尊重し、安心して保育をお願いできています。活動の中で集団行動のルールを教えてくださいることにも感謝しています。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「トラブル対応」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中16問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「お散歩もよく連れて行ってきて、季節の行事や課外活動、体操なども行ってきてありがたいです」「小規模ならではの、一人一人のペースに合わせた対応をしてもらっていると感じる」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「外に出られない夏場でもお部屋の中でたくさん体を動かせるように工夫してくれたりしている」「運動会など大きな行事から公園へ行くという日常的な活動まで、楽しそうに報告してくれています」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「いつも美味しく完食しているようで、調理の先生が工夫してくださっているおかげだと思います」「無理に完食させない点が良いと思います」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「運動会のリレーに向けて自分で特訓したいから東大など広い場所に連れて行ってほしいと言われることもあり、成長を感じた」という声が寄せられている一方、「お芋掘りなどの収穫体験や土に触れる体験などがあると良いと思う」という意見が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「土曜保育など対応くださってありがたいです」「嫌な顔一つせず対応してくださって感謝しかありません」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	9	0	0	1
「はい」の回答は90.0%、「無回答・非該当」の回答は10.0%であった。 自由意見では、「避難訓練、不審者訓練、引き取り訓練がしっかりと実施されていると思います」という声が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見は、1件も寄せられていなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「園で気になることがあった際には、メモなどのお手紙をいただけて、安心しました」「行動から心理面までいつも丁寧に子どものことを伝えてくださっています」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「とても清潔に維持されていて、子どもたちにも片づけの意識がついていると感じる」という声が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見は、1件も寄せられていなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「細かいことまで気づいてご報告くださっていて助かっています」「本人の気持ちの問題の腹痛なども、丁寧に報告してもらえています」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	9	1	0	0
「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は10.0%であった。 自由意見では、「子どもたちに向き合って対応していただけていると感じる」「ありのままに報告してくださるので信頼しています」という声が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「子どもの気持ちを一番に汲み取ってくださって、感謝しかありません」「みなさん笑顔で対応してくださり、大変なこともたくさんあると思うのですが疲れた感じを見せずに明るく振る舞っていて感謝です」という声が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「細やかに丁寧に配慮してくださっています」という声が寄せられていた。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「保護者会では、丁寧に伝えてもらっているかと思えます」という声が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	10	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「丁寧に配慮いただけていると思います」という声が寄せられていた。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	7	3	0	0
「はい」の回答は70.0%、「どちらともいえない」の回答は30.0%であった。 自由意見は、1件も寄せられていなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	園の理念・ビジョンが職員と利用者双方へ多角的な機会を通じて周知されている 園が目指す理念や方針について、年度初めに全職員間で読み合わせを行い、理解の深化に努めている。利用者に対しては、入園面接や保護者会、運営委員会といった多様な機会を通じて、理念と方針を丁寧に説明している。特に、入園のしおりや保護者会議事録などの記録に基づき、職員と利用者双方への周知が計画的に実施されている。これにより、園の社会的存在意義と職員の行動基準が明確化され、全職員と保護者による共通理解の形成が図られている。	
	経営層は調整役として組織を牽引しつつ職員の主体性向上に取り組んでいる 経営層は、保育園としての全ての質の向上に努め、その実現に向けた環境を整えることを自らの役割と責任として職員に伝えている。年度初めの打ち合わせでビジョンを共有し、個人面談を年3回実施することで、職員の個人目標の実現を支援している。リーダーシップについては、組織の調整役としての動きを重視しているが、一般職員の主体性向上が課題として認識されている。今後は、職員が選択肢の提案を答えと捉えるのではなく、一緒に考えて決定に至る環境づくりが求められている。	
	重要な案件の意思決定において全体合意を重視し決定経緯の透明性を確保している 園の経営や運営に関わる重要な案件について、本部に報告・相談した上で最終的に園長が決定する手順があらかじめ定められている。特に、意思決定においては「全体合意」を重視する姿勢が示されており、園長や主任だけでなく一般保育士との話し合いの元、決定に至っている事項が多くある。決定事項とその経緯については、職員会議の議事録を通じて全職員に周知され、利用者に対しても口頭や文面(ミラツツシステム配信機能)にて伝達されている。これにより、組織運営における意思決定の透明性が確保されている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>多角的な情報を収集し保育の質の向上に向けたニーズ把握が図られている</p> <p>園は、運営委員会での事前アンケートを通じて利用者の意向を収集し、「日々の献立写真を定期的に配信してほしい」といった具体的なニーズを把握している。また、職員会議などの各種会議においてレジュメを事前に共有し、職員の意見を積極的に引き出す雰囲気づくりを心掛けている。さらに、文京区園長会やMIRATZ文京区園長交流会への参加を通じて地域の動向を把握し、本部からの情報提供により福祉事業全体の動向も整理されている。これらの多角的な情報収集により、保育の質の向上に向けた現状と課題の把握が図られている。</p> <p>中期事業計画と単年度計画を策定しつつも達成度合いの指標が定性的になっている</p> <p>園は、中期事業計画において「保育士の質の向上」を課題として掲げ、それを踏まえた単年度の事業計画書を策定している。計画の実行においては、年度初めに園全体の業務改善提案書を作成し、その達成度合いを確認する取組を実施している。しかしながら、達成度合いを測る指標が「年間通して、各提案が達成されたか」といった定性的な内容に留まっている。今後は、計画の推進方法や目標達成度合いを測る指標について、「会議の見直しによる〇〇時間の創出」など、より具体的な数値目標を設定することが望まれている。</p> <p>計画の実行管理において定量的な指標の導入が求められる</p> <p>園は運営委員会での事前アンケートを通じて利用者の意見を運営に反映させるという強みを有しており、地域の動向把握においても園長会等の交流を通じて積極的に取り組んでいる。3～5歳児保育園という施設の特性を打ち出すなど、環境把握に基づく課題抽出が行われている。一方で中期事業計画や単年度計画を策定しているものの、計画の実行管理は進捗状況の確認が月末の子どもの人数・職員報告といった基本的な項目に留まっている。業務改善提案の達成度合いを測る指標に、具体的な数値目標を導入し、計画の実行管理を強化することが期待される。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常的言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

社会人及び福祉サービス従事者としての法・規範・倫理の遵守体制が確立されている

園は、社会人及び福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理の周知徹底に組織的に取り組んでいる。特に、個人情報保護に関する誓約書を全職員に用いて理解を深める取組は、法令遵守への意識を高めている。また、人事考課を通じて各職員の現状を確認し、課題解決に取り組むことで、守るべき規範や倫理が遵守されているかを定期的に確認する仕組みが機能している。これにより、子どもの最善の利益を保障するための倫理観と専門性の維持・向上が図られている。

利用者の意向を迅速に把握し組織的な虐待防止対策と対応体制が整備されている

園は、利用者の権利擁護のため、苦情解決制度の利用可能性や事業者以外の相談先を重要事項説明書を用いて丁寧に説明し、周知を徹底している。苦情対応要綱を玄関先に掲示し、危機管理マニュアルを活用することで、利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みが整えられている。さらに、虐待対応マニュアルを用いた職員間の読み合わせや園内研修の実施により、不適切な保育の防止対策が組織的に徹底されている。虐待の疑いがある場合の、子ども家庭支援センターとの連携体制も確立されている。

透明性を高める開かれた組織運営と地域の福祉ニーズに基づいた貢献活動が図られている

園は、運営委員会の際に地域の民生委員を第三者委員として招き、議事録を通じて活動内容を開示するなど、運営の透明性を高める取組を行っている。また、近隣の小学校を中心に保育所体験の受け入れを積極的に行い、地域に開かれた組織となるよう努めている。地域の福祉ニーズに基づき、子育て家庭を対象とした子育て相談や保育所体験に取り組むなど、園の機能や専門性を活かした地域貢献活動が実施されている。さらに、文京区園長会などのネットワークに参画し、地域の一員としての役割を果たしている。

4			リスクマネジメント			サブカテゴリー1(4-1)			リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況			5/5														
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる																		評点(〇〇〇〇〇)											
評価		標準項目																											
●あり ○なし		1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている												○非該当															
●あり ○なし		2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている												○非該当															
●あり ○なし		3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している												○非該当															
●あり ○なし		4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる												○非該当															
●あり ○なし		5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる												○非該当															
サブカテゴリー2(4-2)																													
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている																		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況						4/4					
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている																		評点(〇〇〇〇)											
評価		標準項目																											
●あり ○なし		1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている												○非該当															
●あり ○なし		2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している												○非該当															
●あり ○なし		3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている												○非該当															
●あり ○なし		4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している												○非該当															
カテゴリー4の講評																													
<p>事業継続計画(BCP)の策定とリスク優先順位に基づいた対策が講じられている</p> <p>園は、事業が目指すことの実現を阻害するリスクとして「災害」を最優先に位置づけ、避難訓練や不審者訓練、危機管理マニュアルの整備といった必要な対策を講じている。また、災害や深刻な事故等に備え、事業継続計画(BCP)を策定し、保護者に対して玄関先で閲覧できる形で周知している。事故が発生した際には、事故報告書を作成し全職員がチェックすることで再発防止を図る仕組みが定着している。しかし、BCPのシミュレーション訓練に正規職員以外の職員が参加していない点は、今後の改善が望まれている。</p> <p>個人情報保護に関する誓約とアクセス権限の設定による情報管理が徹底されている</p> <p>園は、情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、全職員が個人情報保護に関する誓約を交わすことで、個人情報保護の意識向上に取り組んでいる。個人の情報に関しては、児童票にて個々にファイリングを徹底し、必要な人が必要ときに活用できるよう整理・管理されている。特に、個人情報や重要事項が入力されたデータは園長用パソコンに保存され、パスワードが園長以外に知らされないなど、情報の重要性や機密性を踏まえたアクセス権限の設定による情報漏えい防止対策がとられている。</p> <p>ヒヤリハットの定着の強みを有しつつ情報管理体制の更なる強化が求められる</p> <p>園は、ヒヤリハットの作成と全職員による閲覧が習慣化しており、事故の軽減に繋がるというリスク管理の強みを有している。また、個人情報保護に関する誓約や個人情報開示規定の整備により、情報管理の基盤は整えられている。しかし、情報の重要性や機密性を踏まえたアクセス権限の設定は園長用パソコンに限定されており、組織全体での情報セキュリティ体制の更なる強化が求められている。また、BCPの訓練に非常勤職員が参加していない点も、有事の際の対応力を高めるために改善が必要とされている。</p>																													

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

職員紹介制度や本部連携による人材確保と働きやすい職場環境の整備が図られている

園は、本部人事部による保育士養成所への訪問や、在籍職員の紹介によるインセンティブ付与など、事業所が求める人材を確保するための具体的な取組を実施している。また、職員全員にとって働きやすい職場を目指し、年度初めに個人面談を行い、一人一人の思いを聴いている。シフト作成の際には偏りのないよう配慮し、有給休暇も計画的に取得できるよう支援されている。これにより、職員の定着と意欲向上に繋がる良好な職場環境の整備が図られている。

職責に応じた人事考課と連動したキャリアパスに基づき人材育成が実施されている

園は、ルーキーから園長まで各キャリアに分かれた人事考課表を用い、職責に応じた長期的な展望(キャリアパス)を職員に示している。このキャリアパスと連動した人材育成計画に基づき、キャリアアップ研修計画表を作成し、各職員の経験や希望を元に研修項目を決定している。園内研修を月1回開催し、勤務形態に関わらず全職員が参加できるよう配慮されている。研修後は報告書を作成し、職員間で共有することで、組織的な学びの深化が図られている。

職員の気づきを組織的に拾い上げ業務改善に繋げるチームワークの促進が図られている

園は、年度初めに園長や主任だけでなく全職員で業務改善項目を考案し、職員全員が主体的に取り組むことを目的としている。研修を受けた職員は報告書を作成し、全職員が閲覧することで、個人の学びを組織全体の知識として共有している。また、職員一人一人の日頃の気づきや工夫を拾い上げ、保育の質や業務の質の向上を目指し、必要に応じて検討の時間を設けている。これにより、職員の主体性を尊重し、チームワークを通じてサービスの質の向上に繋げる仕組みが機能している。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>昨年度は書類の管理を重点課題と捉え、重点目標に達成率100%を掲げている。 昨年度の重点施策として、管理職の立場としての細かな確認及び担任同士、担任間での確認に取り組んでいる。 その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、確認の徹底が上手くいったことが達成に繋がったと考えられる。 こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、昨年度に引き続き、細かな確認の徹底に取り組んでいる。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>昨年度の重点課題として「書類の管理」を設定し、達成率100%という明確な目標を掲げ、見事に達成されたことは評価できる。 書類の管理という、組織運営の基盤に関わる重要な課題を重点課題として特定し、達成率100%という数値目標を設定した点は取組の方向性を明確にする上で非常に優れている。 「こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、昨年度に引き続き、細かな確認の徹底に取り組んでいる」という記述から、成功体験を単発で終わらせず、継続的な改善サイクル(PDCA)の中に位置づけており、この継続性が、組織の質の向上に繋がる最も重要な要素であると評価できる。 目標達成という素晴らしい成果を踏まえ、この取り組みをさらに発展させるために、「細かな確認の徹底」が成功要因であることは明確ですが、この「細かな確認」が具体的にどのような基準や手順で行われたのかを言語化し、「形式知」として文書化することで、取り組みの再現性を高めてほしい。これにより、新任者への指導や、他の部署・チームへの横展開が容易になり、組織全体の標準レベルの底上げに繋がります。 昨年度の成功体験を糧に、今年度もさらなる組織力の向上に邁進されることを期待している。</p>	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>昨年度は職員の事務時間の確保を重点課題と捉え、重点目標に全職員が平等に事務の時間を確保することを掲げている。昨年度の重点施策として、管理職としての、職員がかかえているタスクの把握及び職員一人一人が判断できるようにすることに取り組んでいる。その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できなかった。その原因として考えられることは、目標設定や取組などのプロセスで改善すべき点として、職員によって偏りが発生したことを明らかにしている。こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、職員の事務時間の確保の平等性に取り組んでいる。</p>	
<p>目標の設定と取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>昨年度、組織の生産性向上と職員のウェルビーイングに直結する極めて重要なテーマとして「職員の事務時間の確保」を重点課題に設定され、目標達成には至らなかった。その過程で得られた自己検証の結果、課題の原因が「職員間での事務時間の確保に偏りが発生した」点にあると客観的に分析・特定されたことは、次年度の改善に向けた極めて建設的な姿勢として高く評価できる。重点施策として実施された「管理職による職員のタスク把握」と「職員の自律的な判断を促す権限移譲」は、トップダウンとボトムアップの双方から組織力向上を図る適切なアプローチである。自己検証の結果を活かし、「平等性」を担保する定量基準の確立、タスクの「質」と「量」を可視化するマネジメントとして、タスクの「緊急度」「重要度」「所要時間」の三要素を管理職と職員が共有するマネジメントへと進化して欲しい。この三要素に基づく優先順位付けと公平な配分を徹底することで、特定の職員への業務集中を防ぎ、「偏り」を未然に解消することへ期待したい。昨年度の取組で示された建設的な自己検証の姿勢を活かし、「事務時間の確保の平等性」というより具体的で実効性の高い課題解決に邁進を期待したい。</p>	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
	サブカテゴリ-1の講評		
	<p>情報提供における媒体の多様化と積極的な地域連携による情報発信が図られている</p> <p>園は、利用希望者が情報を入手しやすいよう、公式ホームページやSNSなど複数の媒体を活用した情報発信を積極的に行っている。特に、区のホームページから園のホームページへアクセスできるよう連携していることは、利用希望者への利便性を高めている。また、近隣の図書館や児童館へのチラシ掲示依頼といった地域連携の取組も行われており、幅広い層への情報提供に努めている。見学希望者に対しては、電話での日程調整を柔軟に行い、実際の保育環境をご覧いただいた上で、園の理念や保育内容を丁寧に説明する個別対応が実施されている。</p> <p>見学・問い合わせにおける個別的な配慮と理念を伝える丁寧な取組が実施されている</p> <p>利用希望者からの見学や問い合わせに対して、個別の状況に応じた丁寧な対応が実施されている。見学時には、単に施設を案内するだけでなく、子ども達にとって何を大切に保育しているのかという園の理念や特色を具体的に説明している。これにより、利用希望者が園の保育内容を深く理解し、安心感を持って入園を検討できる環境が整えられている。また、地域子育て支援の一環として、近隣の公園を活用した出前保育を実施し、全職員と在園児が同行して園の雰囲気伝える取り組みも行われている。</p> <p>保護者への情報提供の強化と地域の子育て支援機会の拡充が課題となっている</p> <p>園は、利用希望者への情報提供において、多角的な媒体を活用した積極的な取組を実施している一方で、多様なニーズを持つ保護者への対応強化が今後の課題として認識されている。特に、外国籍の保護者向けの入園案内が存在しない点は、多種多様な利用希望者に寄り添った情報提供の観点から改善が必要とされている。また、地域の子育て家庭に対する子育て相談や栄養相談などの機会が少ないことも、地域支援の拡充に向けた検討事項となっている。これらの課題に対し、情報提供方法の工夫や機会の創出が求められている。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
<p>評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<p>評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>入園前に新入園児面接を行い重要事項や園の基本的ルールを伝えている</p> <p>園は入園前に新入園児面接を行って子どもや家庭の状況を把握すると共に「入園のしおり」や「重要事項説明書」を用いて保育内容や行事について、保健に関すること、災害時の対応などの重要事項や園の基本的ルールについて説明している。説明内容について同意を得た上で利用契約書の内容の理解を図り証明の印を貰っている。保護者の不安な気持ちを考慮した丁寧な説明に努め、保護者の意向や質問などは面接シートに記録し入園後の保育に繋げている。こうした個々に応じた丁寧な説明が入園に対する不安軽減に繋がっている。</p> <p>子どもや家庭の状況を丁寧に把握して記録し、個々に応じた保育に繋げている</p> <p>新入園児面接の際には、面接シートを使用して入園前の子どもや家庭の様子を記録し保護者に記入して貰った入園申込書、入園までの生活状況、健康記録、児童票、緊急連絡カードを用いて個々の状況を丁寧に聞き取り把握確認している。同系列の本郷保育園との連携のもと、児童票や使用していた書類の引継ぎを行い子どもの育ちや配慮事項を継続し個々に応じた保育に繋がられるよう仕組みを整えている。本郷保育園と様々な交流を行い、子どもが園の様子を知っている状況の中で入園できるようにし、子どもや保護者の安心を図っている。</p> <p>サービス終了後も継続した支援に努め保護者や子どもの育ちを支えている</p> <p>5歳児に関しては、年末に保護者と個人面談の時間を設置することで就学にあたっての話ができるようにし、卒園後も子どもの育ちの共有やいつでも相談に応じられることを保護者に伝え安心に繋げている。夏祭りや運動会などの行事に卒園児を招待し皆で集う場になっている。保護者も一緒に来てくれることで小学校での様子を聞くことが出来、継続した支援が必要な子どもには園が心のよりどころとなるようにボランティアなどの誘いを行っている。子どもや保護者が安心できる場所としての役割を担い、子どもの育ちを支えることを園は大切にしている。</p>		

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	13/13
3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
子どもや家庭の状況を把握記録して職員間で共有し保育に反映させている 入園時に子どもの育ちや健康状況、配慮を要すること、家庭の状況などを把握、記録し変化が生じたことについては加筆修正を行い基本的情報の記録を更新している。子どもの心身の状況や生活状況を日々、家庭との連携の下で把握し、一日の保育に反映させている。個人面談を行って保護者と子どもの様子を共有しニーズも含め個人面談記録に記載している。定期的に専門機関や通院をしている子どもについては、都度個人面談を行って子どもの状況を把握確認している。クラス会議で情報を共有し職員会議でクラス状況を全職員で共有し保育に反映させている。			
全体的な計画をもとに指導計画を作成し保育実践の記録に力を入れて取り組んでいる 年度初めに保育所保育指針をもとに全体的な計画を確認し見直しを行っている。全体的な計画をもとに各クラスで年間指導計画を作成し、月案、週案と細分化しクラス状況や子どもの姿に応じた保育実践に繋げている。特別な配慮を要する子どもについては日々の生活を丁寧に観察、記録し個別指導計画を作成している。日々の保育の積み重ねを大切に捉え、子どもの姿や保育の様子を記録する保育日誌の作成に力を入れて取り組んでいる。保育のねらい、活動内容、子どもの姿、保育者の援助・配慮、考察・反省を記載し翌日の保育に反映させている。			
一人の子どもを職員全員で見えていくことを根幹に子どもの姿の共有を図っている 園は一人の子どもを全職員で見えていくという考えのもと、担任以外の多面的な視点を指導計画の作成に活かせるよう園全体で子どもの姿を話し合う時間を作るようにしている。各クラスの指導計画は園独自のシステムを使用して閲覧することができ、情報の共有を図っている。日々の保育にあたり子どもや保護者の状況に変化がある際には、職員連絡ノートで共有する仕組みが作られている。園内研修では年間5回の予定で事例検討を行い子ども理解について学びを深めている。次年度は自身の保育の事例を持ち寄り話し合うことを予定している。			

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>子どものプライバシー保護や羞恥心に配慮し保育を行っている</p> <p>新入園児面接にて個人情報の取り扱いの説明をし「個人情報使用同意書」「個人情報・写真等の取り扱いに関するお願い」を保護者に配付し、同意の確認を行っている。個人情報保護基本規程に則って個人情報の管理を行い、個人情報が記載されている書類に関しては施錠ができる書庫に保管している。職員は入社時「個人情報に関する誓約書」にサインをして個人情報保護を徹底している。個々の子どもの持つ羞恥心に配慮して着替えやシャワーを男女別にすることや子どもを注意する際はその子どものそばで行うなど気持ちに寄り添った対応に努めている。</p> <p>子どもの人権を大切に個々の子どもに合わせた保育に園全体で取り組んでいる</p> <p>園は「不適切保育チェックリスト」への取組や事例をもとにした園内研修で自身の保育を振り返り、子どもの人権について学びを深めている。集団生活の中でも、一人一人の子どもの思いを尊重できるよう個々に合わせた目標やねらいを立て職員会議やクラス会議にて、子どもの様子を報告し、検討を行って見解の統一を図っている。個別の記録をクラス担任が作成し、担任以外の職員も必ず目を通すことで情報の共有に努めている。保育者の都合で保育をすることがないよう集団の中、一人一人を大切にしていこう園全体で取り組んでいる。</p> <p>虐待防止に向けて職員の理解を深め、対応体制を整えている</p> <p>園は各家庭で価値観や生活習慣の違いがあることを理解し、なるべく個々の家庭の目線に立って考え、思いに寄り添っていくことに努めている。子どもの様子でいつもとは違う変化がみられる場合には虐待予防チェックシートを用いて確認を行い児童票に保管している。子ども家庭支援センターと連携体制を取り、共有している情報は職員にも伝えて園全体の見守り体制を整えている。虐待対応マニュアルを全職員が閲覧し、虐待通報義務に関する研修で受けた内容を職員間で共有するなど、虐待防止に向け職員の理解が深まるようにしている。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>サービスの質を担保するため業務マニュアルが整備され、日常的に活用されている</p> <p>園は、提供するサービスの一定水準を確保するため、会社で定められた各種マニュアルにより、サービスの基本事項や手順を明確にしている。これらのマニュアルは全職員が閲覧できる書庫に保管されており、常勤・非常勤を問わず、疑問を感じた際や確認が必要な際に日常的に活用されている。また、マニュアルに沿った記録が残されているか定期的に確認が行われ、自治体の指摘や助言を受け入れ見直しを行うことで、サービスの普遍化と質の維持に努めている。</p> <p>職員の意見を反映させる仕組みを確立し継続的な業務水準の向上に取り組んでいる</p> <p>園は、サービスの向上を目指し、業務水準を見直す仕組みを確立している。運営委員会を年2回開催し、保護者からの意見や要望を伺う場を設けるとともに、全職員の考えを反映させ、園運営についての検討を行っている。また、自治体や保護者からの要望を考慮し、保育の質の向上を目指して年度末にサービスの基本事項や手順の見直しを行っている。これにより、保護者の要請や社会情勢の変化等を踏まえ、職員や保護者等の意見を取り入れながら、より適切な状態になるよう継続的に業務水準の点検と改善が図られている。</p> <p>マニュアルによる業務の標準化と意見反映による継続的な質向上が機能している</p> <p>園は、各種マニュアルを整備し、全職員が日常的に活用できる環境を整えることで、サービスの基本事項や手順の標準化を達成している。さらに、この標準化された業務水準を維持・向上させるため、運営委員会での保護者意見の聴取や、全職員の考えを反映させる検討体制を構築している。特に、園内で独自の統一の物を作成する際は、管理職の思いを一方的に入れるのではなく、全職員で対応を重ねて作成するようにしている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目 (カテゴリ-6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ-4	
		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの興味や関心に合わせた遊び環境を整え主体性を大切にされた保育を行っている</p> <p>園は自分で考えて自分で行動する力が育つよう子どもの主体性を大切にされた保育に取り組んでいる。子どもがやりたい遊び、遊びたい玩具を自分で選ぶことができるように、環境の工夫を行っている。人的環境となる保育者が、子どもの気づきや発言を見逃さず興味や関心、やりたいことを園全体に発信しチームで環境を整えることに取り組んでいる。「今」興味を持っていることを大切に購入が必要なものへのスピーディーな対応や子どもの要求に応じて環境を整え、主体的な遊びを通して子どもが経験することや学びを大切に保育を行っている。</p> <p>異年齢での関わりや異文化に触れる経験が持てるようにしている</p> <p>園は小規模な保育園ならではの利点を生かして基本的にはクラスごとの活動を行う中でも異年齢活動に力を入れ、異年齢での散歩や縦割りの時間を設け子ども同士が様々な関わりを持ち育ち合えるよう取り組んでいる。年上の子どもに対してあこがれの気持ちを持つことや年下の子どものお世話をすることで優しい気持ちが育つことを大切にしている。近隣大学の児童英語ゼミの学生と交流を持ち、いろいろな国の留学生と関わりを持ったり、昨年度は給食に外国メニューを取り入れ都度世界地図に色を塗ったりすることで子どもの他国に関する興味に繋げている。</p> <p>子どもの発達に応じて様々な経験が持てるよう日々の保育の積み重ねを大切にしている</p> <p>発達の過程で生じる子ども同士のトラブルについては個々の子どもの気持ちに寄り添い、子どもの葛藤を理解するとともに、互いの思いを尊重した声かけを行うことで、相手の気持ちに気づくことや人との関わりを学ぶ経験となるようにしている。5歳児の就学に向けては、小学校と交流を持つことで就学を楽しみに待ち期待が持てるよう就学前に小学校の見学に行く機会を大切にしている。更には小学校との連携のもと円滑な接続に向けて子どもが学校を知る様々な取組や子ども同士が交流を持つなどの機会を作り子どもの安心に繋げることに期待したい。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
<p>家庭と園で子どもの様子を伝え合い心身や生活の安定を図っている</p> <p>園独自のICTシステムを活用して家庭と園で互いの連絡が確認できるようにしている。保護者に家庭の様子を記入して貰い、一日の保育配慮に繋げている。登園時の受け入れの際には家庭での子どもの様子を口頭で聞くように努め、職員間で共有すべき事項を「登降園ボード」に記入している。「登降園ボード」は受け入れ時、受け渡し時に使用して様々な引継ぎを行っている。園での個々の様子は担任及び当番職員が保護者に直接伝えており、活動の様子は写真を使用した「活動記録」で保護者に伝えることで子どもの心身や生活の安定に繋げている。</p> <p>個々の子どもの様子を伝え合い、基本的な生活習慣が身につくよう働きかけている</p> <p>園は個々の子どもの発達に応じて身の回りのことや基本的な生活習慣が身につくよう日々の送迎時や個人面談で保護者と子どもの様子を確認し共有するようにしている。子どもの意欲を大切にできるように相談し、個々の子どもにあった援助を一緒に考えるようにしている。食事に関しては、栄養士が作成する給食だよりに必要な情報を載せて子どもの育ちで大切なことを共有している。保健に関する情報は園よりで伝えており、子どもの心身の健康や自分のことを自分でする力が身につくよう働きかけている。</p> <p>家庭と情報を共有し年齢や様子に合わせて必要な休息や睡眠がとれるようにしている</p> <p>園は年齢や家庭での生活リズムそれぞれに差があることを考慮して一人一人に合った休息や睡眠がとれるよう配慮している。日々家庭と連絡を取り、家庭での子どもの様子を把握してニーズに応じた休息や睡眠のとり方、時間や方法を検討し提供している。欠席していた子どもについては職員が休みの間の子どもと家庭での様子を確認し、無理なく園生活が送れるように配慮している。5歳児は1月から午睡を無くし就学に向けて生活リズムが整うようにしている。個々の子どもの生活リズムが整うよう働きかけ、心身の安定を図っている。</p>			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
<p>一人一人の個性を尊重し子どもが自分の遊びを楽しむ姿を大切にしている</p> <p>子ども一人一人の個性を大切にすることで、子どもが自分の存在を意識し自分らしく過ごせるよう園は周りの友だちと異なった考えを持って良いということ子どもたちに伝えている。子どもがいろいろな物事に興味を持ち、探求心を持って考えたり考えたりすることが生きる力に繋がることを大切に捉え、個々の子どもが自主的に遊べるよう環境を整えている。子どもが自分で考える経験が積み重なるよう大人が安易に答えを出さず子どもの意見を聞く姿勢を持つようにし、子どもの主体性を大切に保育に取り組んでいる。</p> <p>様々な表現遊びを楽しむ中で自己肯定感や豊かな感性を育てている</p> <p>園は子どもが自らの感性で様々な表現をすることを大切に捉え言葉や音楽、制作やごっこ遊びなどの表現活動に積極的に取り組んでいる。絵本や紙芝居を繰り返し読み聞かせ子どもが想像力を持って物語の世界感を楽しむ姿を大切にしている。保育者が子どもの気持ちに寄り添い言葉に対する感覚が育つよう日々の関わりを大切にしている。子どもの様々な表現を受け止め、共感し、認めてあげることで子どもの自己肯定感を高め、創造性や豊かな感性が育まれるようにしている。作品展を今年は共同制作で行い、友だちと一緒に作り上げる楽しさを味わっている。</p> <p>戸外活動を通して身体をたくさん使って遊び多様な経験が持てるようにしている</p> <p>子どもが戸外で様々なもの・場所・ことに触れ多様な経験が持てるよう園は様々な園外活動に積極的に取り組んでいる。散歩や遠足でいろいろな自然に触れ、視覚だけでなく鳥の声を聴き花の香りを知ることや水の冷たさを感じるなど五感の刺激を子どもが感じ、楽しむ経験が持てるようにしている。歩くことを大切に様々な公園や身体を使って遊べる場所に出かけ、固定遊具などを使って遊ぶことで子どもが高さを知ることや様々な身体の動きが経験できるようにしている。少年野球場で行われる「すくすくプログラム」に参加し様々な運動遊びを楽しんでいる。</p>			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちの「やりたい」を大切に様々な行事を行い多様な経験に繋げている</p> <p>園は普段の保育の延長線上に行事が存在するという考えを大切にしている。行事のために何かをするのではなく、子どもたちの「やりたい」という思いを行事に繋げ、無理なく行事までの過程を楽しめるようにしている。毎年行っている作品展ではテーマを大人が決めるのではなく、子どもの姿に応じた取組となるようにしており、遠足での子どもの姿や経験をもとに「動物園」をテーマにした取組を行うなど子どもと一緒に作り上げることを楽しんでいる。夏まつり、運動会、遠足、クリスマス会、作品展などの行事を行うことで子どもの多様な経験に繋げている。</p> <p>行事への取組を通して子どもが仲間と力を合わせ達成感が味わえるようにしている</p> <p>園は集団活動を行う中で、子どもがいろいろなことを経験し、社会性や協調性、コミュニケーション能力が育つことを大切にしている。運動会では子どもたちと相談してやりたい演目を決めていく。鉄棒やマットを使った障害物のサーキットや子どもが見せたいと思っている足掛けや前回り、逆上がりなどの鉄棒などを行い子どもの意欲に繋げている。パラバルーンやソーラン節、組体操などその年に子どもがやりたいと思っていることを取り入れ、みんなで練習を重ねていく中で、仲間とともに達成感を味わうことができるよう取り組んでいる。</p> <p>行事の意義やねらい、子どもにとっての意味を保護者に伝え理解や協力を図っている</p> <p>園は保護者会や運営委員会にて、それぞれの行事の意義やねらい、子どもにとって必要な経験となる園としての考え方を説明し理解や協力が得られるようにしている。一年の成長を保護者とともに喜ぶことができるよう夏まつりや運動会を保護者参加の行事として位置づけ、事前にアンケートを取って参加の有無を確認し、できる限り参加して貰えるようお願いしている。運動会には保護者リレーや親子競技も取り入れて親子で楽しめるようにし、運動会終了後の撤収作業を事前に要請して協力を仰ぐなど保護者と共に行う行事となるよう工夫している。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心して、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもの心身の状況を考慮し様々な配慮を行っている</p> <p>園は全体的な計画の中で長時間保育について「子どもの発達や生活リズム、心身の状態に十分配慮し、通常保育とのバランスを考慮して一日の疲れや保護者を待つ気持ちを受け止め温かい対応を行うこと」と記し個々の子どもの気持ちに寄り添い子どもが安心して過ごせるようにしている。延長保育の時間は、少人数になることから日中の保育とは違った雰囲気を作り、ゆったりと過ごせるようにしている。お迎え時には当番職員が園での子どもの様子を保護者に伝え、家庭と連携して子どもの心身の安定が図れるようにしている。</p> <p>保育時間が長くなるなかでも子どもが楽しく過ごせるよう環境を整えている</p> <p>延長保育は担任以外の職員が保育することもあるが、日々の保育の中で、担任以外の職員も子ども一人一人との信頼関係を築いており保育時間が長くなる中でも安心して過ごせるようにしている。各年齢の指導計画の中に長時間保育についての配慮事項を記載し、異年齢の子ども同士が関わり楽しめる遊びを取り入れるなどの工夫をしている。日中の保育とは違う玩具を用意したり、子どもの要求に応じたり、遊び内容を子どもと相談したりするなど、楽しく過ごせるよう環境を整えている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p>楽しく食事を取ることを大切に環境やメニューなどの工夫を行っている 園は食事の一番のねらいを「食事を楽しむ」とし、保育者も子どもと一緒に食べることで会話をしながらの楽しい食事時間を作っている。4、5歳児が一緒に食事を取っているが、3歳児も一緒に食べる時を作り異年齢で食事を楽しむ機会を作っている。栄養士が子どもの喫食の様子を見てまわり、保育者と連携のもと一人一人の好みや発達状況を把握し献立作成に活かしている。2週間サイクルの献立を使用して子どもが食材に慣れることや季節の料理、行事食、郷土料理などを取り入れて、子どもが食事を楽しめるよう工夫している。</p> <p>様々な食育に取り組み子どもの食に対する興味関心を育てている 園は食育年間計画をもとに年齢ごとに様々な食育を行い個々の子どもの食する力が豊かに育つよう取り組んでいる。興味のある子どもを集めて給食でその日使用する野菜を洗う手伝いをしたり、きのこほくしやごますりをしたりなど子どもが関われることを保育に取り入れ、食材や食事に関する興味関心に繋げている。園が提携している魚屋と連携して地域の子育て家庭に向けた「魚の解体ショー」を行い自分たちが普段食している魚への関心を図ったり、地域の子育て支援や地域貢献活動に繋げたりなど地域と協働した食育を行っている。</p> <p>子どもの状況に応じて対応する仕組みを整え安全に楽しく食べられるようにしている 現在、食物アレルギーのある子どもは在籍していないが、食物アレルギー対応マニュアルに則り子どもが安全に食事をする仕組みを整えている。医師が記載した生活管理指導表をもとに担任と栄養士、保護者がアレルギー面談を行って子どもの状況を確認し、アレルギー食材を除去する体制を作っている。文化の違いにより食べられない食材のある子どもには代替え対応の仕組みを整えている。健康上配慮を要する場合には柑橘系や刺激のある食材を体調に合わせて除去するなどの対応を取り、子どもが無理なく食事が取れるよう配慮している。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
<p>年間保健計画をもとに健康教育、保健指導を行っている 園は年間保健計画を作成し「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことを目標に健康教育や保健指導、安全管理に取り組んでいる。健康生活に必要な習慣や態度を身につけられるよう手洗いチェッカーを使用した手洗い指導を行い、手洗いに對する子どもの意識向上に繋げている。年に一度、歯科衛生士による歯磨き指導を行って、歯の大切さを子どもに伝えている。健康な体づくりに年間を通して取り組み戸外遊びの充実を図るとともに、月に一度の体操教室で様々な体の動きが経験できるようにしている。</p> <p>医師や関係機関との連携のもと子どもの健康維持が図れるようにしている 園は毎月身体測定を行って子どもの発育状態を把握するとともに年に4回行う内科健診と年一回歯科健診を行って子どもの健康状態を把握確認し、結果を「健やか手帳」にて保護者に知らせている。特別な配慮を要する子どもが通っている関係機関との直接的なやり取りはないが、保護者を通して連携を図り、必要な情報を担任と保護者が都度、面談をして共有し適切な対応が取れるようにしている。看護師によるエビペンの使用方法を保育士に伝える講習を行い、緊急時に備え対応できる体制を整えている。</p> <p>保護者と情報を共有し子どもの心身の健康が維持できるよう働きかけている 日々の登園、降園の際に子どもの様子や健康状態について家庭と園で伝い合い、情報が共有できるようにしている。気になることがある際には口頭での伝え合いを大切に、子どもの心身の状況が把握できるようにしている。園だよりに保健指導の項目を毎月載せるようにし、季節や時期、状況に合わせて子どもの健康や保健に関する情報を保護者に伝え、子どもの健康管理に繋げている。園内で感染症が発生した場合は、配信にて保護者に伝え、注意喚起を促している。自治体からの情報やお知らせを掲示し子どもの健康が維持できるよう働きかけている。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保護者の安心が図れるよう個々の状況に配慮した対応に努めている</p> <p>子どもにとっての最善の利益を第一に考えながらも、保護者が抱えている様々な事情を理解し、個々の状況に合わせて保育時間などの配慮を行っている。子どもについてはもちろんのこと、保護者自身のことや家庭のことなどについても相談に応じ丁寧に対応できるよう努めている。支援が必要な家庭に関しては、子ども家庭支援センターと連携を取りながら、保護者との面談を行うなどの支援を行い必要な手立てが受けられるよう働きかけている。保護者のニーズに応じて随時個人面談を行うなど保護者に寄り添うことを大切に安心が図れるよう努めている。</p> <p>保護者と職員の信頼関係が構築できるよう全職員で子どもを見守る保育に取り組んでいる</p> <p>子どもの成長は、保育園と保護者が協力し合うことが土台となることを鑑み、保育園での姿を保護者に、家庭での姿を保育園に伝え合うことを意識し取り組んでいる。保育園と保護者とのコミュニケーションの構築が何より大切であるとの考えのもとクラス担任だけでなく、全職員が一人一人の保護者との信頼関係の構築に努めている。子ども一人一人を全職員で見守ることを園の根幹として保育を行い送迎の際には伝達事項を伝えるだけでなく、その日の子どもの様子をエピソードで伝えることで保護者の安心や信頼に繋げている。</p> <p>子どもの発達や育ちで大切にしたいことを保護者と共有し子育て力の向上に繋げている</p> <p>園は保育の様子や子どもの姿を通して発達や育ちで大切にしたいことを、園だより、クラスだより、給食だより、SNSなどの様々なツールを用いて保護者に伝え共通認識が持てるよう働きかけている。保護者会では保育目標の説明をするとともに子育てにとって大切な項目の説明を行い子育て力の向上に繋げている。個人面談では子どもの「今」を園と家庭で伝え合い大切にしたいことを確認している。毎年保育参加を行って園生活や遊びの様子を見てもらい子ども理解に繋げるなど様々な取組を通して共通理解を図り子どもの育ちが支えられるようにしている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
<p>地域にある様々な資源を活用し、子どもの多様な経験に繋げている</p> <p>園は地域貢献を園ビジョンの一つとし、また、社会の中で子どもが多様な経験を持つことを大切に、地域との交流を積極的に行っている。2つの高齢者施設を子どもたちが訪問し歌やダンスを披露したりプレゼントを制作したりすることで大変喜ばれる体験をしている。勤労感謝の日には近隣の様々な商店や児童館、図書館、園医や消防署などに子どもが作ったカレンダーをプレゼントとして持参し、感謝を伝えている。公共交通機関を利用して園外保育に出かけ、子どもが社会を知る経験を持つなど社会資源の活用を力を入れて取り組んでいる。</p> <p>様々な人との交流を通して子どもが地域の中で育っていくことを大切にしている</p> <p>近隣図書館の出張お話し会や小学生の職場体験、近隣大学生のサークル活動との交流などを受け入れ、子どもが園の職員以外の様々な年齢の人と関わる機会を作っている。食育の取組では野菜や果物をスーパーに買いに行くことや遠足に持っていくお菓子を費用と人数に合わせ値段を調べて買いに行くなどの体験を通して社会の仕組みを知る経験となるようにしている。子どもが地域を知り、地域の方々に見守られながら育っているという意識が持てるよう様々な活動を行い、地域の一員として力を発揮し育っていくことを園は大切にしている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル①	近隣大学と交流を持ち日本文化、異文化に触れる経験機会を設けている	
内容①	園は近隣の複数の大学と交流を行っている。古民家を使った交流会の提案を受け、大学生と区内にある古民家でひな祭り会をしたり制作活動を行ったり、黒電話や古い階段など昔の家の作りを体験するなどの日本文化に触れる体験をしている。また、別の大学とは児童英語ゼミの学生と交流を図り、様々な国の留学性とのふれあいや英語の歌、ゲームなどで異文化に触れる体験をしている。運動会を近隣大学の体育館を借りて開催するなど、地域の多数の大学と交流を図っており、子どもが大学の存在を知り多様な経験を持つ豊かな機会を作っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル②	地域子育てで支援に力を入れ、出前保育や地域商店と連携した食育を行っている	
内容②	園は地域の子育て家庭をサポートするために、有益な情報の交流や発信の役割を担う組織を創造することを方針とし地域貢献に力を入れて取り組んでいる。年に2回近隣公園にて地域の子どもたちにベープサートを行う出前保育を行っている。未就園児体験受け入れや地域商店と連携して地域子育て家庭向けに魚の解体ショーを開催し、その日の給食を試食できるようにするなど、子どもの食に対する興味関心に繋げている。こうした取組は地域で育つ子ども同士との交流機会や多様な経験に繋がり、地域子育てを支える場所としての役割を担うものとなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル③	卒園後も心情に寄り添う継続した支援を行い心のよりどころとして育ちを支えている	
内容③	園は、卒園後の子どもや保護者に対する支援を大切に考え、夏まつりや運動会などの行事招待を行っており、同窓会のような雰囲気での互いの情報を交換する場となっている。卒園児のボランティア活動を積極的に受け入れて子どもの気持ちのよりどころとなる環境を作り、何らかの理由をもとに小学校でつまずきのある子どもが自身の育った場所で安心して力を発揮し、自己の存在意義や自己肯定感が回復できる場となるよう努めている。保護者にとっても相談できる安心基地の役割を持ち、子どもの育ちを継続的に支えることを園は大切にしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	様々な地域資源を活用し、社会の仕組みや営みを子どもが知ることや人との交流を通して子どもが地域で豊かに育つことを大切にしている
	内容	園は子どもが地域の中で多様な経験を持つことを大切にしている。公共交通機関を利用した園外保育や買い物体験、近隣の高齢者施設訪問を行い、近隣大学との交流では異文化や日本文化に触れることを体験している。勤労感謝の日にプレゼントを届ける活動は子どもが地域に愛され育っていることが感じられる機会となっている。園は地域に生き生きと共生する子どもを育むことを理念とし地域との交流を通して子どもが社会の様々な営みを知り、自分も地域の一員として豊かに育つことを大切に様々な地域資源の活用に積極的に取り組んでいる。
2	タイトル	保育記録の見直しや事例検討などを通して職員の育成を図り、子どもの育ちが支えられるよう取り組んでいる
	内容	園は一人一人の子どもを職員全員で見えていくことを大切に、子どもの姿を職員間で共有し個々の姿に応じた保育実践に取り組んでいる。個々の職員の保育の視点や子ども理解、自身の保育の振り返りが綴られる保育日誌の大切さを鑑み、日誌に関する園内研修を行いねらいや考察、反省の大切さを学んでいる。また、事例検討に計画的に取り組む、それぞれの職員が事例を考察し皆で話し合う機会を設けるなど職員の育成を図り、子どもが安心して過ごし成長を支える園の保育力の向上が図れるよう力を入れて取り組んでいる。
3	タイトル	子どもが主体的に遊び、生活することを大切に子どもの「今」を大切に環境作りを行い様々な経験に繋げている
	内容	「ひとりの個性・意欲を大切に、生きる力・豊かな心・考える力を培う」を保育目標とし、子どもが今考えていることややりたいと思っていることができるようにしている。子どもの気づきや言葉を見逃さず、子どもの興味関心に合わせできるだけタイムリーに必要なもの、できる環境を用意することで子どもの遊びが豊かに発展できるようにしている。子ども自身の感性で様々な経験が持てるよう子どもの姿を考察し、その子どもが何を求めているのかを読み解いて遊び環境を変化させ、子ども一人一人の育ちが支えられるようにしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	全職員を対象とした実践的なシミュレーション訓練を通じて、災害時における事業継続計画の実効性をさらに高めることが期待される
	内容	事業継続計画(BCP)を策定し、「災害」を最優先リスクとして特定した上で、避難訓練やマニュアル整備といった具体的な対策を講じている。保護者が閲覧できる形でBCPを周知することで、より透明性の確保と信頼関係の構築に繋げてほしい。しかし、現状のBCPシミュレーション訓練に正規職員以外の職員が参加していないという点は、全職員が参加する網羅的かつ実践的な訓練を重ねることで、BCPは単なる計画書から、組織に根付いた「生きた知恵」へと昇華してほしい。
2	タイトル	研修報告書の目的を再定義し、個人の学びを組織の資産に変えるための具体的な記述と積極的な活用を促進することが求められる
	内容	キャリアパスと連動した人材育成計画に基づき、月1回の園内研修の実施や外部研修への参加を促進し、研修後に報告書を作成・共有する仕組みを構築しており、個々の知識やスキル向上が奨励され、組織全体の専門性向上への意識が醸成されている。研修報告書は、研修内容の「報告」としての側面に留まっている可能性があるため、報告書を職員会議での議題として取り上げ、具体的な活用案について議論する場を設けてほしい。「報告」で終わらせず、そこから新たな「改善」を生み出すサイクルを確立してほしい。
3	タイトル	「とうきょうすくわくプログラム」を導入し、子どもの主体性を引き出す豊かな遊びの環境を体系的に構築していくことが望まれます。
	内容	園の理念やビジョンを職員間で共有し、保育の質の向上を目指す姿勢があり、中期事業計画で「保育士の質の向上」を掲げ、業務改善提案に取り組むなど、より良い保育環境を模索している。子どもの主体的な遊びを豊かに引き出す環境づくり、保育の質を組織全体で底上げするための一つの有効な手段として、「とうきょうすくわくプログラム」の導入を検討してほしい。プログラムの研修を通じて、職員全員が「豊かな環境構成」に関する共通理解とスキルを習得し、チームとして保育の質向上に取り組むことができる。